

地域の課題を発見・解決し、地域の再生・活性化を実現する、
琉大生の斬新でユニークなアイデアを募集！

令和4年度「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」 募集要項

1. 本プロジェクトの趣旨

地域社会にはさまざまな問題や課題があり、それを発見・解決し、地域を元気にしていくことが、今、求められています。とくに、若い人々の新鮮な考え方、ユニークな視点に、大きな期待が寄せられています。

「地域共創型学生プロジェクト（以下、ちゅらプロ）」は、琉大生が自ら「地域」に入り、地域の再生・活性化やそこでの課題の発見・解決等に取り組むという「公募型の正課外プロジェクト」です。地域を元気にするためのアイデアを学生の皆さんに出していただき、審査の上、優秀なアイデアに対して、そのアイデアを実行するための費用を提供します。採択されたプロジェクトに対しては、費用の支援だけでなく、計画・実施にあたって本学の教員・事務職員が全面的に皆さんのチャレンジをサポートします。

このプロジェクトを通じて、学生の皆さんが、地域に対する理解を深め、卒業後も地域の発展に大いに貢献できる人材となることを目指しています。

例えば、

- ・若者の人口流出に悩む地区に対して支援したい。
 - ・離島地域の子供達になにかできることを支援したい。
 - ・地域の再生・活性化のための特産品開発に取り組んでみたい。
 - ・地域の課題が生じる原因について調査・研究してみたい。
- といったご要望にお応えします。

別添2に平成30年度、令和元年度、令和3年度の採択例をつけましたので、参考にしてみてください。

以下、募集要項です。皆さんからの多数の応募をお待ちしています。

2. 応募資格 ※①～③の要件を全て満たすこと

- ① 琉球大学の正規の学生3名以上で構成されるチーム
* 在籍学年、所属学部・研究科は問いません。
- ② 実施するプロジェクトに「熱意」と「責任」を持ち、最後まで遂行できるチーム
- ③ 期限内にエントリーすることができるチーム

3. 採択件数

4～5件程度

4. プロジェクトの実施要件

(1) プロジェクトの支援額：最大 **30万円** の支援

◇配分予算額を超える分については自己負担となります。

(2) 全体プロジェクト期間（応募から実施まで）：2022年5月～2023年3月※下記表参照

◇2023年2月中旬から3月中旬の間に成果報告会を実施する予定です。報告会までに活動を実施し、期間内に実施した活動の成果について報告できるように準備してください。また成果を公表する機会が他にも生じることがあります。

◇2023年3月末日までに、最終報告書の提出やお世話になった機関へのお礼の連絡等を行います。プロジェクトの終了時期が早ければ3月以前に報告書の提出とお礼などを終えることも可能です。

5. 全体のスケジュール



	日程の目安	内容
応募	2022年5月9日（月）～5月31日（火）	エントリー募集期間
	2022年5月11日（水）、16日（月）12:00～12:40	公募説明会
審査	2022年6月6日（月）	1次審査(書類審査)
	2022年6月13日（月）13:00～16:00	公開審査会
	2022年6月24日（金）	プロジェクトの採択通知
実施	2022年6月29日（水）12:00～12:30	キックオフ説明会
	2022年7月1日（木）～2023年2月末日	プロジェクト実施期間（個別ヒアリング適宜有り）
	2022年10月中	中間報告会
	2023年2月中旬～3月中旬の間に予定	成果報告会
	2023年3月末日	成果報告書等の送付・お礼の完了、アンケート回答

※個別ヒアリングは、成果報告会終了まで適宜実施されます。

6. エントリー方法

① 公募説明会、各学部事務窓口、地域連携推進機構ホームページ (<https://chiiki.skr.u-ryukyu.ac.jp/>) のいずれかから、「エントリーシート」(別添1)を入手する。

② 「エントリーシート」に必要事項を記入する。

③ 必要事項を記入した「エントリーシート」を、琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課(大学本部棟1階)宛に直接または電子メールにて提出する。メール提出の場合は、電子ファイルを添付の上、提出すること。件名は下記のようにすること。

提出先アドレス：cocplus@acs.u-ryukyu.ac.jp

提出件名：「【ちゅらプロ】(取組チーム名)エントリーシート」

7. エントリー受付期間

令和4年5月9日(月)～5月31日(火) ※窓口提出の場合は16:00まで

8. 令和4年度「ちゅらプロ」公募説明会の開催について

下記の日程で、本プロジェクトの公募に関する説明会を開催します。経費の活用範囲についても説明と質疑応答を行うため、プロジェクトの応募を考えているチームはできるだけ参加すること。日程が合わないチームは個別に相談可。

日 時：令和4年5月11日(水)、16日(月) 12:00～12:40

(説明会内容は同一のものになりますので、どちらかに参加してください。)

場 所：地域国際学習センター3階301講義室

9. 書類審査及び公開型プレゼン審査会の実施について

1次審査として、提出いただいた書類(エントリーシート)を地域連携推進機構で審査します。

1次審査を通過したプロジェクトについて、下記日程により公開型プレゼン審査会を実施し最終的な採用プロジェクトを決定します。

日 時：令和4年6月13日(月) 13:00～16:00

場 所：対面またはオンラインで実施するので、後日連絡します。

①発表に含めることが望ましい内容

(1)プロジェクト概要：チャレンジしたいアイデア

(このプロジェクトはどのような内容ですか)

(2)取り組むべき地域課題

(このプロジェクトを実施することによってどのように地域に貢献しますか)

(3)オリジナリティ、面白さ

(これまでに実施されてきたアイデアとどう違って、どこが面白いのか)

(4)プロジェクトの実施計画

(プロジェクトの実施期間、担当者、(4)の目標を達成するための具体的な行動計画を教えてください)

(5)期待するプロジェクトの成果・効果

(このプロジェクトを実施すると地域にとってどんないいことがありますか)

(6)予算の使用方法(必要な予算について教えてください)

②審査の観点

(1)地域社会に対する意義

(このプロジェクトを実施することで「地域」に貢献できることがあるか)

(2)オリジナリティ

(すでに実施されているプロジェクトや活動と比べて評価できる点があるか)

(3)実施可能性 (チャレンジする気持ちと行動力が伴っているか)

③審査員：本学教職員 (地域連携推進機構を中心に選定)

④審査結果：審査会終了後、速やかに各プロジェクトの代表者に結果を通知する

10. 経費使用について

〈使用できる例〉

〈使用できない例〉

旅費 (移動費・宿泊費) レンタカー借用代 (ガソリン代も可) 制作物の材料購入費 パンフレット等の印刷費 図書購入費 謝金 送料 作業用具代 プロジェクトに必要な消耗品代など	プロジェクトとは関係のない消耗品代 自家用車による移動に伴うガソリン代 パソコンやディスプレイ等の備品購入代 学生個人が加入する保険料 タクシー代 (特別に必要となる場合除く) 人件費 (アルバイト雇用経費) など
※具体例や不明な点については、説明会にて問い合わせてください。	

11. その他、プロジェクトの実施に関する注意事項

- ①新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分留意して実施すること。
- ②公開審査会、中間報告会、成果報告会には原則チーム全員参加すること。
- ③本取組の教育効果を調べるためアンケートの回答に協力すること。
- ④外部機関への依頼や新聞等の取材を受ける際は、事前に申し出ること。
- ⑤実習的活動を伴う場合は、自己負担により必ず保険に加入すること。
- ⑥本プロジェクト経費で旅費の支出を行う場合、学内の教職員が旅行の引率者として随行することを受け入れること。

12. 運営主体・本件に関する問い合わせ先

「地域共創型学生プロジェクト (ちゅらプロ)」

主催：地域連携推進機構

地域連携推進機構 小島 肇 (こじま はじめ)

メール：kojima@eve.u-ryukyu.ac.jp

研究室：地域国際学習センター2階 202 研究室

令和 4 年度 地域共創型学生プロジェクト エントリーシート

エントリーチーム名	
フリガナ 代表者氏名	
所属・学年	() 学部・研究科 () 学科・課程 () 年 学籍番号:
連絡先	メール: 電 話:
プロジェクト名	
実施するプロジェクト の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組むべき地域課題 ・オリジナリティ、面白さ ・プロジェクトの実施計画 ・期待するプロジェクトの成果・効果
参加メンバー氏名・所属・学年（代表者以外）	・
	・
	・
	・
	・
	・
	・
	・
	・
	・
サポート教職員※2の 氏名・所属	氏名: _____ 印 所属:() 学部 () 学科・課程 プロジェクトが島外へ移動を伴う際の引率(可 ・ 不可)

※1 必要に応じて、回答枠の拡張や行の挿入（電子ファイルの場合）、別紙への記入等を行ってください。別紙の場合、本エントリーシートと併せてご提出ください。

※2 「サポート教職員」とは、応募者が申請するプロジェクトへのアドバイス等を行う教員（琉球大学所属）のことをいいます。サポート教職員が実際にプロジェクトに関わるか否かは問いません。島外への移動において、サポート教職員が引率不可の場合、地域連携推進機構の教員が引率を行います。本エントリーシート提出時点で該当者が未決定の場合は空欄で構いません。（プロジェクト実施までには設定していただきます）

令和4年度 地域共創型学生プロジェクト エントリーシート ～記載例～

エントリーチーム名	チームちゅらプロ
フリガナ 代表者氏名	リュウダイ ハコ 琉大 花子
所属・学年・学籍番号	(○○○○) 学部 (○○○○○) 学科・課程 (○) 年 学籍番号：123456Z
連絡先	メール： 電 話：
プロジェクト名	○○○プロジェクト
実施するプロジェクトの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組むべき地域課題 (このプロジェクトを実施することによってどのように地域に貢献しますか) ・オリジナリティ、面白さ (これまでに実施されてきたアイデアとどう違って、どこが面白いのか) ・プロジェクトの実施計画 (プロジェクトの実施期間、担当者、(4)の目標を達成するための具体的な行動計画を教えてください) ・期待するプロジェクトの成果・効果 (このプロジェクトを実施すると地域にとってどんないいことがありますか)
参加メンバー氏名・所属・学年・学籍番号 (代表者以外)	・●● ●● (○○○○学部○○○○○学科・○年・123456A)
	・●● ●● (○○○○学部○○○○○学科・○年・223456B)
	・●● ●● (○○○○学部○○○○○学科・○年・323456C)
	・●● ●● (○○○○学部○○○○○学科・○年・423456D)
	・
	・
サポート教員※2の氏名・所属	氏名： 印 所属：() 学部 () 学科・課程 プロジェクトが島外へ移動を伴う際の引率(可 ・ 不可)

※1 必要に応じて、回答枠の拡張や行の挿入（電子ファイルの場合）、別紙への記入等を行ってください。別紙の場合、本エントリーシートと併せてご提出ください。

※2 「サポート教職員」とは、応募者が申請するプロジェクトへのアドバイス等を行う教員（琉球大学所属）のことをいいます。サポート教職員が実際にプロジェクトに関わるか否かは問いません。島外への移動において、サポート教職員が引率不可の場合、地域連携推進機構の教員が引率を行います。本エントリーシート提出時点で該当者が未決定の場合は空欄で構いません。（プロジェクト実施までには設定していただきます）

地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）採択実施一覧

平成 30 年度

	プロジェクト名	メンバー構成	プロジェクト概要
1	100 年続く公設市場ミーティング	法文学部 2 年次：6 名	那覇市第一牧志公設市場の周辺は、「マチグラー」と呼ばれて、沖縄の食文化の拠点であった。現在、市場の建て替えが計画されているが、本プロジェクトは「100 年続く公設市場ミーティング」を行い、地域住民、市場事業者、未来を担う若者が集う場を設けて、新しい市場のあり方を構想する。
2	Chikasui プロジェクト	法文学部 2 年次：4 名	八重瀬町をフィールドとして地下水の保全・利用に向けての取り組みを行う。地域の水源や地下水について広く認知してもらうため、町民を対象にヒアリング調査とアンケート調査の実施、絵本作成などの活動を行う。
3	星の民話採集プロジェクト	理学部 3 年次：1 名 理学部 2 年次：1 名 理学部 1 年次：1 名	古来、琉球では人々は星と深く関わり合いながら生きてきたため、独特な星の名前や民話があった。しかし、高齢化が進むことでその話が伝承されなくなっている。そのため、この事業を通して沖縄本島や各離島に出向き、星にまつわる話をまとめることを目的とする。この事業をすることによって、沖縄本島・離島地域の人に新たな魅力を感じてもらうことができ、地域活性に繋げていく。

令和元年度

	プロジェクト名	メンバー構成	プロジェクト概要
1	地域生産者に学ぶハーブ生産とハーブ関連商品開発	農学部研究科：2 名 農学部：4 名	沖縄県南城市はハーブの生産地として地域農業の振興を図っていることを農学部の講義の中で耳にした。今回のプロジェクトでは、ハーブと島やさいの栽培を通して、沖縄県の農業振興に関わる活動をしている岸本ファームの協力を得て実施する。具体的には、岸本ファームが開催する農作業体験などのイベントを学生が手伝い、農業の魅力を広く伝えることを経験する

※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から未実施となっています。

令和 3 年度

	プロジェクト名	メンバー構成	プロジェクト概要
1	Quality of Tourism (QOT) プロジェクト～量から質へ コロナ禍の観光産業をリブする～	国際地域創造学部：10 名	沖縄観光の量から質への転換について、沖縄観光の分析、観光業者へのヒアリング調査、学生と観光業者のワークショップを通して、レジリエンス（回復力）が高い持続可能な沖縄観光について考察する。
2	感染症予防ハーブ伝承知アーカイブプロジェクト	国際地域創造学部：1 名 農学部：8 名	感染予防ハーブの研究を題材に、農業体験やワークショップの開催、ホームページ制作を通して、感染症に対するレジリエンスの向上及び農業従事者の高齢化、担い手不足といった地域課題の解決に取り組む。

3	あつまれグローバル人材！ひらけ留学のトビラ！ ～沖縄市・うるま市のPR動画制作×魅力発信～	人文社会学部：1名 国際地域創造学部：1名	留学に興味のある高校生や大学生と沖縄市・うるま市の地域探検を行い、探検の際に撮影した写真や動画を使用して市のPR動画制作等を行う。こうした活動を通して、コロナ禍/アフターコロナ時代におけるマイクロツーリズムの推進及び留学生が留学先で自文化を発信できる土台作りに繋げる。
4	文化と伝統を次世代に繋ぐ with コロナ	国際地域創造学部：4名	紙芝居やカードゲームを通して、小学生に親しみやすく、教える側と教わる側両方に伝統芸能の知識と興味を持ってもらうことを目的に活動を行う。
5	かるたで学ぼう！やんばるの自然	国際地域創造学部：7名	やんばる3村地域の動植物の魅力を詰め込んだ「やんばるカルタ」を作成し、カルタを使用した子供向けイベントの開催を通して、「楽しく学ぶ」をモットーに、子どもたちに自然や動植物の魅力を伝え、自然に興味を持つための機会を創出する。
6	大度浜海岸ハンドブックを作ろう！	理学部：3名	地元の海（大度浜海岸）に誇りを持ち、環境を守る意義を学んでもらうため、専門知識を持った琉球大学生のスキルを生かし、作成したハンドブックを公民館や教育機関に配布することにより、地域に環境に関する意識を根付かせる。